



平成 29 年度とっとり弥生の王国

青谷かみじち遺跡土曜講座 第 4 回 (11 月 25 日 午後 1 時 30 分開催)

会場：鳥取市青谷町総合支所 2 階 多目的ホール

講演&トークセッション

青谷びとが描いた世界

～青谷上寺地遺跡と青谷横木遺跡～

いにしへの青谷びとはなぜ絵を描き、何を伝えたかったのか、脳科学や芸術の観点から青谷びとの心を読み解き、その世界に迫ります。

講演 「絵を描く心の起源を探る」

ーチンパンジー、子ども、クロマニヨン人、そして青谷びとー

講師 さいとう あ や 齋藤 亜矢 さん (京都造形芸術大学准教授、芸術認知科学)

トークセッション 「青谷びとが描いた世界」

パネリスト 齋藤 亜矢 さん

みうら つとむ 三浦 努 さん (鳥取県立博物館主幹学芸員、近現代工芸・美術)

コーディネーター きたうら ひろと 北浦 弘人 (鳥取県埋蔵文化財センター、考古学)

青谷上寺地遺跡の弥生人が描いた絵の数々、躍動的に泳ぐ魚の姿や、角のある動物たちが左右対称に並ぶ姿、大舟・小舟が浮かぶ船団の様子などは、シンプルな線ではありますが、対象物が生き生きと表現されています。一方、青谷横木遺跡の飛鳥時代の女子群像の板絵には、侍女を従えた高貴な女性たちが優雅に歩く姿が描かれており、古代東アジアにおける文化交流を物語っています。

これらの絵画について、考古学にとどまらず、脳科学や美術といった分野の専門家にお集まりいただき、これまでにない多角的な視点から絵の作者の思いを読み解き、いにしへの青谷びとの世界に迫ります。



青谷上寺地遺跡から出土した琴に描かれた動物たち



講師のことは

絵を描く心の起源について、進化や発達の視点から研究をしています。進化の隣人であるチンパンジーと子どもの絵の比較から見えてきたのは、想像力というキーワードです。絵には、描く人が世界をどう認識しているかが表れます。チンパンジーの絵、子どもの絵、人類最古の旧石器時代の絵についてご紹介しながら、青谷びとの絵の特徴についても考えてみたいと思います。

齋藤 亜矢 (さいとう あや)

京都造形芸術大学文明哲学研究所准教授。京都大学理学部、医学研究科修士課程、東京藝術大学大学院美術研究科修了。博士(美術)。京都大学野生動物研究センター特定助教等を経て、2016年度より現職。著書に『ヒトはなぜ絵を描くのかー芸術認知科学への招待』(岩波書店)など。現在、岩波書店の月刊誌『図書』にエッセイを連載中。



パネリストのことは

青谷で出土した遺物に描かれたさまざまな絵画を、弥生人による線的表現としての「ドローイング」、あるいは装飾としての「器物への絵付け」と捉え、古今東西の絵画作品や工芸品に見られる多様な表現と比較しながら、青谷人が遺した絵画の魅力とは何か考えてみたいと思います。



三浦 努 (みうら つとむ)

鳥取県立博物館美術振興課主幹学芸員。多摩美術大学美術学部芸術学科卒業。(財)清春白樺美術館学芸員を経て、1999年度より鳥取県教育委員会文化課美術館開設準備室学芸員、2002年度より鳥取県立博物館美術振興課学芸員。美術史学会、美学会会員。

1 日 時

平成29年11月25日(土)午後1時30分から3時

2 会 場

鳥取市青谷町総合支所 2階多目的ホール(鳥取市青谷町青谷667)

3 定 員

120名(参加費無料、事前申込みが必要)

*席に余裕がある場合は当日参加も可能です。

4 申込方法、お申込み・お問合せ先

下記まで、電話・ファクシミリ・電子メールでお申込みください。

〒689-0592 鳥取市青谷町青谷667(鳥取市青谷町総合支所2階)

鳥取県埋蔵文化財センター青谷調査室

電話 0857(85)5011、ファクシミリ 0857(85)5012 電子メール maibuncenter@pref.tottori.lg.jp

ホームページ <http://www.pref.tottori.lg.jp/maibun/>

*** 山陰道青谷インターで交通規制が予定されていますので交通情報にご注意ください。**

